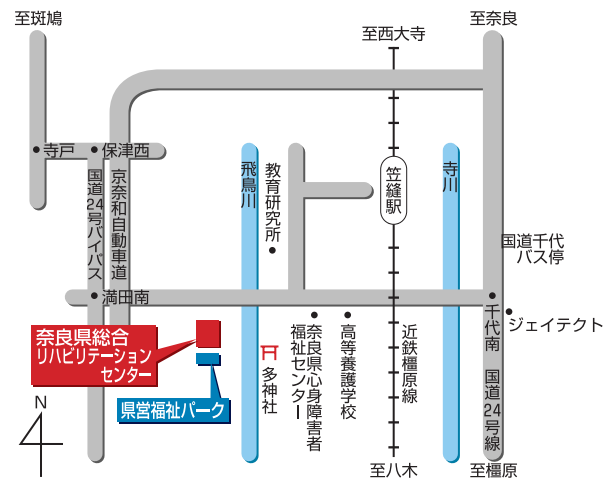


平成21年4月1日からの外来診療日程

		月	火	水	木	金
内科	一般内科診察を行っています。リハビリを要する患者さんの多くは、高血圧・糖尿病・心疾患などの基礎疾患を持つことが多く、特にこれらの診療に力を入れています。	山野		佐々木	佐々木	山野
神経内科	脳卒中、脳挫傷や他の神経疾患の後遺障害に対するリハビリテーションに関して、ご相談をお受けしています。セラピストや医療ソーシャルワーカー等と連携して対応致します。	杉江	森下			杉江
整形外科	骨や関節など運動器の疾患や外傷、脊椎疾患などの治療を行います。脊髄損傷の医学的管理なども行っています。脊髄損傷、運動器疾患のリハビリテーションは、入院治療を原則としています。	北田(所長)	手術日	中河	林	寺西
		田中(兼)	(担当医)	寺西	田中(兼)	
整形外科(小児)	脳性麻痺などによる運動障害を中心に外来で機能訓練や装具療法を行い、長期的に機能回復と社会参加をサポートしています。成人脳性麻痺の患者さんは、整形外科での診察を行っています。	林(午後)				中河(午後)
		田中(兼)(午後)				寺西(午後)
小児科	こどもの様々な発達の問題について、診断を訓練や療育の相談を行っています。(脳性麻痺、運動発達の遅れ、知的な遅れ、広汎性発達障害、ADHD、構音障害など)		金廣	金廣(初診)		金廣
精神科	神経症主体の一般科外来と「落ち着きがない、集中できない、集団行動が出来ない」といったADHDやアスペルガー障害、学習障害などの相談を児童思春期外来でお受けしております。	高橋			高橋	
耳鼻咽喉科		由良(午前)	覚道(午後)			
泌尿器科				田中洋		近藤
眼科			小島(午前)			
放射線科			田岡(午前)			

受付時間：午前 8時30分～11時30分
午後 1時00分～ 3時00分（整形外科小児、耳鼻咽喉科〈火曜のみ〉）

交通のご案内



交通機関

- 近鉄笠縫駅……………1.3km
徒歩約20分
- 近鉄田原本駅…………タクシー
約10分
- 近鉄八木駅……………タクシー
約10分
…リハビリセンター行バス
約15分
(12/29～1/3は、運休)

あとがき

今回は、創刊号ということもあり、リハセンター全体を紹介させていただく内容となりました。これから2号、3号と発行していきます。できるだけ皆さまにセンターを身近に感じてもらえるような生声、お役に立てる情報をお伝えしていければと思います。よろしくお願いします。

奈良県総合リハビリテーションセンター

〒636-0393 奈良県磯城郡田原本町大字多722番地
電話0744(32)0200(代)
FAX0744(32)0208
<http://www2.mahoroba.ne.jp/~narareha/>



巻頭言 ～創刊によせて～

奈良県総合リハビリテーションセンター所長
北田 力

この度、「きらり」奈良リハニュースが発行されることになりました。当リハビリテーションセンターは、昭和63年6月に心身障害者(児)の各種相談判定から精密検査、治療、訓練等まで一貫して行える県下初の総合的な施設として開設されましたが、当時はリハビリテーションというものがようやく社会に普及し始めた所であり、従ってリハビリテーション病院も全国的にみて数がきわめて少ない状態でありました。しかし、昨今の超高齢社会の現出によってリハビリテーション病院の需要は急増し、現在も県下に多数の施設が開設されているのが現状です。これらのリハビリテーション病院は機関誌を発行し、それぞれの自己アピールをおこなっています。「きらり」という表題も、職員から広く公募して決まりました。予期せぬ病によって突然失われた機能の現実を前にして真っ暗な闇の中にある患者さんに「きらり」とした一条の希望を持ってもらう、あるいは、他とは一味違った「きらり」とした医療技術を発揮する、「きらり」にはそのような意味が込められているのではと私なりに推測しています。この「きらり」奈良リハニュースは年に2回発行予定致しております。スタッフ一同アイデアを搾ってさらに良いものを作っていくつもりでありますので、是非ご愛読頂き、当リハビリテーションセンターが皆様方に少しでも身近なものに感じられる様になれば幸甚でございます。

最後になりましたが、今後とも当リハビリテーションセンターに対しご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

リハビリテーション科

リハビリテーション科には、理学療法部門（PT）、作業療法部門（OT）、言語聴覚療法部門（ST）の3部門があります。それぞれで、入院・外来で成人・小児の利用者様を対象に専門的なリハビリテーションを提供しております。

また、各部門間や医師、看護師、他関連職種との情報交換を密にし、利用者様の機能回復だけでなく生活全般の向上も含めた総合的なリハビリテーションを実施しております。

平成21年度のスタッフ数は、PT22名、OT25名、ST6名の計53名で、充実したマンパワーで利用者様のニーズに少しでも応えられるようサービス向上に努めてまいります。



リハビリセンター って どんなところ？

通園センター

通園センターとは個々の利用者に必要な医療ケア、機能訓練、保育・療育活動、福祉的支援などを総合的に提供し、家庭生活を基盤としながら利用者の発達や成長を支援する施設です。

※肢体不自由児通園施設（ちゅーりっぷ組）
歩行機能等、運動機能の弱い子供のクラスです。知的面を合併している方もいます。

※知的障害児通園施設（すみれ組）
歩行機能は実用レベルに達している、知的面や情緒・行動面での弱さを持つ子供のクラスです。

※難聴幼児通園施設（ひまわり組）
難聴の子どもさんと、言語面・知的面の弱さが疑われる子供のクラスです。

※重症心身障害児（者）通所事業（さくら組）
在宅生活を送る重症心身障害児（者）（就学中の者を除く）を対象にした施設です。



放射線科

オープン型のMRIで障害者や高齢者また閉所恐怖症の方にも負担の少ない検査を提供しています。



薬剤科

患者様にお薬についてわかりやすい説明を心がけております。



検査科

血液や尿の分析、心臓や脳の機能などの検査を行い、病気の診断に必要な情報提供を正確かつ迅速に行っています。



医事相談

医事相談係では、医療・介護・福祉制度等についてのご相談に応じております。

例えば、

- 社会復帰計画や退院に際して起こってくる問題。
 - 入院・通院に際しての経済的な問題。
 - 介護保険申請・身体障害者手帳取得などの社会福祉制度及び施設の利用などについて。
- 上記以外のケース相談にも応じておりますので、医師・看護師等に申し出て下さい。



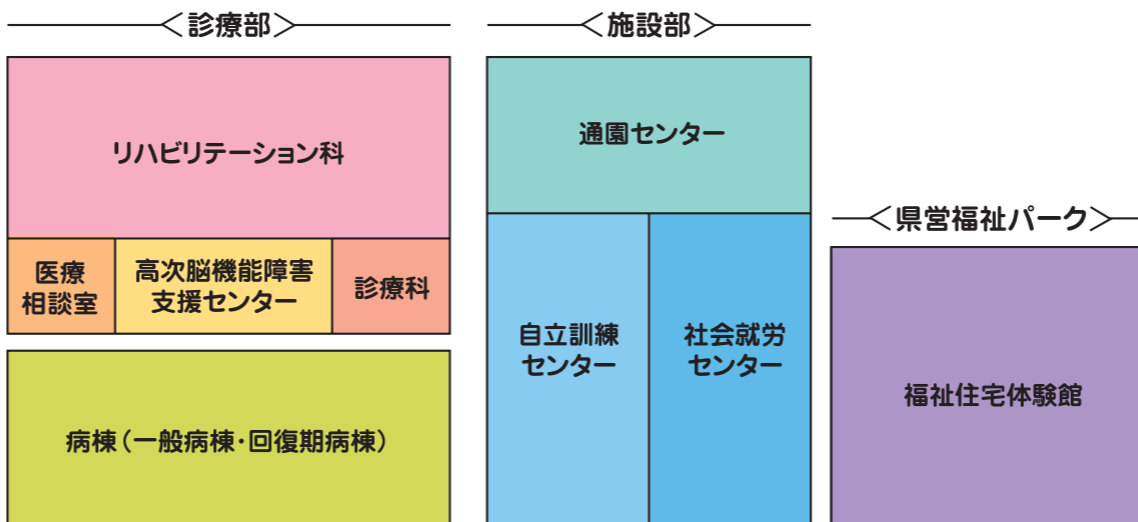
高次脳機能障害支援センター

高次脳機能障害支援センターでは、高次脳機能障害に関するご相談をお受けしています。お心あたりの方は、まずはお電話をお待ちしています。

◆電話相談 午前9:00～午後5:00（平日月曜～金曜日）
電話番号（直通）0744-32-0205

◆来所相談 予約制（事前にお電話ください）

※必要に応じ、高次脳機能障害の診断を予約制にて行っています。



看護科

3階病棟は一般病棟です。整形外科の術前・術後の管理、神経内科、内科等のリハビリ目的で入院の患者様の日常生活の介助や、リハビリ時間以外での自主訓練の介助を行っています。

4階病棟は回復期リハビリテーション病棟です。日常の基本的な生活動作を指導し、退院後の生活を視野に入れた看護を提供しています。



自立訓練センター

自立訓練センター（指定肢体不自由者更生施設）は、身体に障害のある方を対象に身体機能や日常生活能力の向上・外出能力や体力の向上・趣味の開発などの社会的リハビリテーションを行い、地域で自立した生活ができるよう支援する施設です。

対象者は、脳血管障害・脊髄損傷・外傷等の後遺症・脳性麻痺等主たる障害が肢体不自由の方（身体障害者手帳の交付を受けている方）で常時の医療対応・介護の必要がなく、訓練を受けるための基礎的体力をお持ちの満15歳以上、概ね65歳以下の方となっています。

訓練の内容は、①運動機能系訓練～マット運動・パワーレーニング・歩行訓練 ②グループワーク～ダンスセラピー・生活技術・コミュニケーション・リフレッシュセラピー ③家事動作訓練 ④社会適応訓練 ⑤PT訓練 ⑥OT訓練 ⑦職能訓練～パソコン・木工・陶芸・絵画などの訓練がありその他、必要に応じて心理療法・看護・運転免許取得についての対応を行います。

社会就労センター・セルブ

セルブは、働く意欲を持ちながらも雇用されることが困難な障害者に、はたらく場を提供し、社会参加と自立促進を援助し、また就職を目指して職業的な訓練を行っています。

軽作業を中心に、障害程度に応じて、作業内容を考慮し、プラスチック製品の組み立て等を行っています。市町村で、旧法施設支援（身体通所授産）の支給決定を受け、日常生活動作が自立し、通所が可能な方が対象です。現在、施設利用者を募集しています。働く意欲を持たれている方、在宅で、日中の時間を有意義に過ごしたいと考えている方、ぜひ、「セルブ」へ。あなたのやる気を応援します。随時、見学も可能です。詳しい事は、お問い合わせ下さい。お待ちしております。



福祉パーク

県営福祉パークは、進展する高齢社会に対して、福祉のまちづくりの推進に役立つよう道路・バス停などの公共施設のモデルをつくるとともに、介護に関する知識・技術の普及や介護機器・改善住宅の展示等により、見て、触れて、体験しながら高齢社会について種々学べる公園として、平成10年に、全国に先がけて整備されたものです。

